

2024 年 12 月 20 日

日本獣医生命科学大学 附属動物医療センター
院長 藤田 道郎

日本獣医生命科学大学における生成 AI 利用ガイドラインに係る
運用手引き（附属動物医療センター）

2024 年 8 月 19 日付け日本獣医生命科学大学における生成 AI 利用ガイドラインにつきまして、以下に附属動物医療センター関係者の運用手引きを示します。

利用目的

生成 AI の使用は、以下の目的に限定します。

- ・ 獣医療文書の作成や補助（例：カルテ記録の下書き、診断書の補助）
- ・ 獣医療情報の整理および分析（例：研究データの要約、統計解析補助）
- ・ 獣医療教育および学術的用途（例：教材作成、文献レビュー）

データの取扱い

- ・ 症例情報の保護：生成 AI に入力するデータには、症例およびオーナーを特定出来る情報（氏名、住所、連絡先など）を含めないで下さい。
- ・ 匿名化：症例データを使用する際は個人情報が含まれないことを確認して下さい。
- ・ セキュリティ：生成 AI を使用するデバイスおよびネットワークは、適切なセキュリティ対策が講じられていることを確認して下さい。

倫理的配慮

- ・ 正確性の保証：生成 AI が出力した情報を使用する前に必ず内容を精査して下さい。
- ・ オーナーへの説明と同意：生成 AI を診療に利用する場合は、オーナーに説明し、同意を得て下さい。
- ・ 偏りの排除：生成 AI が生成する情報が特定の偏見や差別を助長しないように留意して下さい。

使用制限

- ・ 生成 AI を診断や治療の最終判断には使用しないで下さい。最終判断は必ず獣医師が行って下さい。
- ・ 生成 AI による誤った情報や予測が症例の安全を脅かす場合、その責任は利用者が負うことになります。
- ・ 生成 AI を用いて作成あるいは加工した画像（イラストを含む）のカルテへの掲載は禁止します。

学術研究および発表での利用

- ・ 学会や研究会等にて口頭やポスターにてプレゼンテーション資料を作成する際および商業誌等からの依頼原稿を作成する際に生成 AI を利活用することは禁止しません。ただし、生成 AI では、もっともらしい情報を含む文章や引用論文が付加された文章が作成されますが、内容は不正確な事も多く、引用論文は存在しない架空の論文の場合があります。また、生成 AI で作成された文章は由来が不明なため、そのまま用いると剽窃となる可能性があります。このような正確性・信頼性を欠く文章や引用論文を使用

した考察は、発表内容そのものの正確性・信頼性が損なわれてしまう可能性があります。そのため、生成 AI を用いた文章や引用論文については教科書、専門書、PubMed 等の信頼おける他の媒体からの確認や裏付けを取るとともにこれらの媒体を表記してください。

- 学会や研究会あるいは出版社によって生成 AI の取扱いが異なります。事前に規定等を確認し、それに従ってください。
- 自身の臨床手技や画像検査データなどを論文等に記載する際に、生成 AI を用いて作成あるいは加工した画像（イラストを含む）を使用することは禁止します。その他については誤った内容又は人に誤解を与える可能性のある内容ではない場合に限って利用することができるものとします。
- 学術雑誌に投稿する場合は、本学大学院にて取り決めた「生成 AI 利用ガイドラインに係る運用手引き」に準じた対応とします。

トラブル対応

- 生成 AI の利用による生じた問題は速やかに報告して下さい。付属動物医療センター内で適切な対策を講じます。
- 法的リスクを最小化するため、利用記録を保存してください。必要に応じて監査を実施します。